

平成19年3月学術講習会

(社)日本鍼灸師会
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 663 回
(2007.3.25)

演題および講師

整形外科疾患

・「肩関節疾患」

- 身体所見の取り方と診断 -

聖路加国際病院 整形外科 田崎 篤

鍼灸治療編

・「五十肩」

鑑別診断と鍼灸治療

(社)東京都鍼灸師会 副会長 浦山 久昌

「肩関節疾患」

身体所見の取り方と診断

田崎 篤

整形外科に来院される患者の主訴で肩関節の疼痛は腰痛、膝関節の次に多く、臨床の場でも頻度の高いものです。その病因として頸椎症や頸部筋膜炎（いわゆる肩こり）、肩関節周囲炎や凍結肩（いわゆる五十肩）から腱板損傷、肩関節不安定症、関節唇損傷など多岐に渡り、それぞれに対して診断における身体所見、そして導かれる治療方針が異なります。肩周囲の疼痛は患者の訴えがあいまいであったり、疼痛部位が変化したり、日内変動を認めたりと診断に苦渋することも

少なくありません。また患者の罹患年齢や罹患期間、身体所見によっては手術的な治療が必要な場合もあり、その診察方法や見極める技術を習得する必要があります。手術療法は当聖路加国際病院では関節鏡を用いて低侵襲に手術を行っています。

最新の医学知識をビデオや図を用いての説明によって、皆様の肩関節疾患の概念、身体所見の取り方、診断の再学習にお役に立てればと考えております。



聖路加国際病院 整形外科 田崎 篤

「五十肩」

鑑別診断と鍼灸治療

浦山 久昌

鍼灸院に来院する肩関節疾患の代表は、五十肩です。五十肩の治療は経過も長く、臨床においては、対処に難渋する事も少なくありません。今回、五十肩を中心に、腱板炎、上腕二頭筋長頭腱炎、石灰沈着性腱板炎、などの病態と鑑別、鍼灸治療を実技を交えて講演いたします。



(社)東京都鍼灸師会 副会長 浦山 久昌